



楽しい旅と、本当に楽しい旅

学校長 横山 豊

皆さんは旅が好きですか。私は大好きで、これまで大小様々な旅をしてきました。今回は、そんな私の経験を踏まえて、楽しい旅のスタイルについて話したいと思います。

大学時代に私は、美術部に所属していました。アルバイトをしては稼いだお金で美術部の合宿に参加し、全国各地、北は北海道から南は九州まであちこちに出かけていました。一回生の時は北海道の函館に1週間、二回生では長崎に1週間といった具合に、キャンパス、絵の具、スケッチブックなどを背負って仲間たちとスケッチをして歩くのが何よりの楽しみでした。

そんな部活動の合宿で、日本海の漁村をいくつか歩いて回ったことがありました。ある港に着くと、そこにはたくさんのかかり船が停泊していました。マストからはラッキョウのような形をした何十もの照明が吊るされており、使い込んだ船と港に無造作に置かれたガラス製の大きな浮きも含めて構図のバランスが良く、まさに「絵になるモチーフ」でした。とても気に入り、その漁村の港の傍らに陣取り、何枚も絵を描きました。すると漁師さんが私の前を行き来する時に声をかけてくれるようになり、干物までもらったりして、実に楽しい一日を過ごしました。次の日はバスに乗り、また歩き、ポイントを見つけては絵を描き続けました。この旅は大学時代のかげがえのない思い出となっています。

旅とは、古来「歩く旅」でした。ゆっくりとしたスピードで歩きながら様々なものを発見したり、見知らぬ人達と交流できるものだったのです。しかし人間の旅は「乗り物の旅」へと変遷していきます。馬の旅、馬車の旅、列車の旅、船の旅、自動車の旅……。それと同時に移動するスピードはどんどん上昇し、より遠くへより速く着けるようになりました。そして人間は極端に高速移動が可能な飛行機を発明することになりました。

その飛行機の旅も、さらに目的地に早く着けるようになっていきます。たとえば私が飛行機に最初に乗ったのは24歳の時です。国から半額ほどのお金を援助してもらい、ケンブリッジ大学のペンブローックカレッジ(※)へ、2ヶ月ほど英語の教授法について学びに行くために乗ったものでした。そのときはイギリスまで28時間もかかりました。当時ハリウッドで作られたばかりの映画「エイリアン」の原作を持って乗ったのですが、それ

が到着までに丸々読めてしまう程の大変な時間でした。皆さんはどうですか、一日以上ずっと飛行機に乗っていられますか？じっとしていられますか？心配は無用です。今では11~12時間で行くことができるようになっています。

このように乗り物は発展しどんどん便利になってきました。しかしその反面、大切なものが旅から失われつつあるようにも思います。以前、中国の詩人が書いたこのような文章を読んだことがあります。

「数歩歩くと、ふと面白い色の形の石ころを見つけ、1つの石ころにすら感動を覚えることがある。そして偶然に出会った人、またその風景を詠む。歩く旅にはその一歩ごとに新たな発見、感動がある」

スピードの速い乗り物の旅では、このような「面白い色の形の石ころ」を見つけることはできません。

先ほど紹介した、スケッチ旅行のときに描いた作品は今も保管してあります。それをたまに見ると、「使い込んだ船には独特の美しさがあると知ったこと」「ガラス製品には過去にみつけたことのない光沢を発見したこと」「見知らぬ学生に声をかけてくれた漁師さんたちの日に焼けた顔の輝き」などが思い出されます。

最近のバスや列車は窓が開きません。そういった乗り物での行って帰ってくるだけの旅もそれなりに楽しいのかもしれませんが。しかし旅の本当の醍醐味は、歩いて地元の人とふれあい、歩くことでしか見えてこないものをみつけることではないでしょうか。



※ペンブローックカレッジ(Pembroke College)：イギリスのケンブリッジ大学(Cambridge University)は34のカレッジから構成されており、3番目に古い1347年に創設されたカレッジです。